

評価シート 様式

取組名	「食」と「器」の地域づくり		
実施団体名	有田町地域活性化協議会	対象地域	佐賀県有田町
(代表団体名)	有田町	推薦団体名	

① 実施 状況	提案書に記載された取組内容について、当初の計画通り実施されているか	② 実施 体制	平成20年度に行われた取組の実施体制について
	<input type="checkbox"/> 申請時に予定した取組を適切に実施したと判断される。		<input checked="" type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り地域の関係者が明確な役割分担の下、各々主体的に実施されたと判断される。
	<input checked="" type="checkbox"/> 申請時に予定した取組の一部が未実施となっている。但し、予定した主要な取組は適切に実施したと判断される。		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り地域の関係者が明確な役割分担の下、各々主体的に実施されたと判断されるものの、改善の余地が認められる。
	<input type="checkbox"/> 申請時に予定した取組の一部又は全部が未実施となっており、特に主要な取組が実施されていない。		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、主体的に実施されたと判断できない。
	(備考・特記事項)		(備考・特記事項)
③ 効果	平成20年度に行われた取組の当初目標の達成状況について	④ 継続 展開 の見 込み	平成20年度に行われた取組の継続展開の見込みについて
	<input checked="" type="checkbox"/> 当初設定した目標を達成し、実施した取組が予定していた成果をあげたと認められる。		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り又は発展的に継続展開が予定され、持続的・効果的に取組が進捗すると見込まれる。
	<input type="checkbox"/> 当初設定した目標の達成には至らないものの、実施した取組が予定していた成果の一部又は全部をあげたと認められる。		<input checked="" type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画とは一部異なるものの、取組方法の改善等により持続的・効果的に取組が進捗すると見込まれる。
	<input type="checkbox"/> 実施した取組が当初の目標の達成に至らず、予定していた成果をあげることができなかったと認められる。		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り持続的・効果的に取組が進捗するとは見込まれない。
	(備考・特記事項)		(備考・特記事項)

※①において「申請時に予定した取組とは異なる取組が行われた」場合や、③において評価シート作成時点で成果を把握できない場合など、留意事項がある場合に「備考・特記事項」欄に記載する。

評価シート 様式

取組名	「食」と「器」の地域づくり		
実施団体名	有田町地域活性化協議会	対象地域	佐賀県有田町
(代表団体名)	有田町	推薦団体名	

⑤ 総合評価	○ 複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果に関する所見 地方自治体の合併により、それぞれの自治体の地域資源を総合的に融合し、観光戦略の積極的展開を通じて地域振興をはかろうとする同様の事情の地方自治体に関して全国的にもモデル性・複合性の高い事業である。
	○ 評価
	<input type="checkbox"/> ①～④及び「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」の全てにおいて評価が高く、「地方の元気再生事業」の趣旨に鑑みて優れた取組であると評価できる。
	<input checked="" type="checkbox"/> 「地方の元気再生事業」の趣旨に合致した取組であると評価できる。ただし、①～④及び「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」のいずれかについて改善の余地が認められる。
	<input type="checkbox"/> ①～④のうち1以上の項目で評価が低く、「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」においても特筆すべき点が認められず、「地方の元気再生事業」の趣旨に合致した取組であるとは評価できない。 (評価の考え方及び次年度以降に向けた所見)
<p>本取組は、2つの町の合併により、双方の地域資源を農業、窯業、まちづくり、観光の分野をこえて連携し、地域活性化をはかろうとする取組であり、地域活性化の取組を積極的に進めることで、地域の融合をはかろうとしている点が高く評価できる。今後は、以下に留意しつつ地方の元気再生事業として支援を行うことにより継続的な展開が期待できるものである。</p> <p>次年度以降については、通年観光の成立に向けて、将来の宿泊観光の実現を念頭に置き、個々の観光客の現地滞在時間の増加を目指す必要がある。</p> <p>このためには、現状で特に機能の弱い食に関して、町屋レストランの常設化を目指すとともに、本年度の取組の食、器、町屋の利用に加えて、裏路地や空き家を活用したまちづくりを検討し、回遊性を確保する必要がある。また、さまざまな取組が並行して試みられる中で、全体をコーディネートし、観光戦略をすべての取組が共有できるような体制の構築を行うべきである。</p> <p>個別の取組としては、加工食品の販売実験の拡大については、あじさい村の実績を踏まえ、今後は地方の元気再生事業の支援によらず自立的活動として取組を行うべきである。広報については、ホームページについては本年度の成果を活用することにとどめ、首都圏等のアンテナショップを活用した販売ルートの確立に集中すべきである。大正時代の食器の開発については、これにこだわらず、取組成果を活かした「こだわりの器」を目指すべきである。</p>	